

1 子どもの学習支援事業（鹿沼市委託事業）

(1)実施日及び場所

毎週日曜日：東部台コミュニティーセンター

毎週火曜日：南摩コミュニティーセンター

毎週水曜日：鹿沼市民情報センター

<その他の活動場所>

こども食堂：タケノコ（英語・数学）

こっとな村（家庭科）等

不登校生徒の施設外学習（音楽）いちごミュージックスタジオ等

(2)内容

- ・教科指導 芸術活動 コミュニケーション 金銭教育 プログラミング教育
- ・不登校相談等教育相談
- ・保護者交流会
- ・兄弟支援

(3)講師

教職員退職者、塾講師、大学生 その他 30名

(4)児童生徒利用者数

コミセン登録111名

（こども食堂では希望者が随時参加）

(5)成果と課題

- ・毎年参加者が増加している。特に情報センターが多い。
- ・昨年度と同じ場所で開催したので継続して児童生徒が参加し、講師の先生方との信頼関係ができ、学習効率が上がった。
- ・定期的な学びの機会を得て学習習慣が着実に身につき成績が上がった。
- ・集中が難しい児童生徒が増えてきたが、ベテランの講師の先生が創意工夫を重ね、授業内容を工夫していただいた結果、参加態度が落ち着いてきた。
- ・本年度も全員と個別面談をしたことで、個々のニーズを把握でき、支援が必要な家庭に

柔軟な対応ができた。

- 社会福祉協議会の方の生活相談が加わり、より家庭との連携が深まった。
- 個別学習だけでなく、カルタや手芸などグループで楽しく学ぶ活動ができた。
- 途中で欠席となってしまった児童生徒も多かった。昨年からの課題である送迎の必要性については今後も提案していきたい。
- こども食堂では食を通じた関係作りがあった上で学習指導ができたので、非常に効果があった。学習室を別に設けた子ども食堂では特に効果が上がった。

2 フリースクールでの学習指導

(1) 小中高校生

- フリースクール希望の児童生徒は全員E p i cに移籍した。
- その他の児童生徒は学習支援事業の中で対応

(2) 専攻科9名（鹿沼市6名 那須塩原市1名 日光市1名 群馬県1名）

- 教習所を卒業後の生活、就労、余暇支援を希望する生徒2名。
- 教習所入所を目指したが難しく、国語・算数の学習を希望している生徒2名
- メンタルサポート2名
- ゴルフ教室 工芸 芸術活動などの生涯学習3名

(3) 成果と課題

- 在宅、ひきこもりの方の訪問指導については（一社）コブルと連携して進めることができた。
- 不登校だった生徒が就労体験をする中で力をつけ自分の進路を自分で選択することができた。
- 障害者の青年期の学びを求める家庭も多く、それぞれニーズは違うが、多様性を認め合い、自己実現できる居場所の必要性を感じた。
- 一般の方のイベント参加も受け付け、多様性に出逢う場とした。
- 小学生の時に習得できなかった読み書き算数の力を基礎から積み重ねた結果、コミュニケーションが円滑になり、家庭生活が落ち着いてきたという報告があった。

3 発達障害者運転免許取得支援事業「あおぞらプラン」

(1) 内容

- 免許取得時の合宿生活支援（イースタンハイツ他利用 食事支援とメンタルサポート）
- 取得後の就労・余暇支援（就労移行の利用 コブルとの連携 生涯学習としての交流

移住者のサポート)

- ・知的障害者のための入所前支援（学科指導 語彙 読解指導 ）
- ・TPA（つばさプランアセスメント）検査後、基準得点が取れない方への面接。（本人の意思確認と見通しを持った学習支援の提示）

（2）成果と課題

- ・全国展開が各所で報じられ講演活動が広がり、様々な支援団体の見学が多かった。
- ・3月より、コロナウイルスの影響で活動を停止したため、前半の伸びが維持できなかった。
- ・オンライン指導を実施して意欲を継続できた。

4 多様性を認め合うまちづくり

（1）無量荘との連携

- ・デイサービス「和久井亭」でのお年寄りとの交流の充実
ボランティア活動 昼食交流 介護福祉体験
- ・福祉職員補助 有償ボランティア アルバイト雇用 正社員任用
- ・花金パーティーでの余暇支援 支援者の交流

（2）「生きいきこっとな村」事業の拡大とB型事業所への移行

- ・調理、手芸、文芸、農業等定期的な居場所活動（火・木10時～15時）
- ・ひきこもり支援アウトリーチ事業との連携
- ・綿製品の販売促進 カヌマイムズ商品開発
- ・野菜栽培、販売協力

（3）こども食堂協議会

孤食防止 調理手伝いなど交流の場

困窮家庭からの緊急避難の居場所提供 宿泊支援

毎週月曜日：仁神堂 森のこびと

毎週水曜日：縦山 レストランノエル

隔週金曜日：タケノコ食堂

毎週木曜日：こっとな村

その他 鹿沼市内2か所開所

（4）こども未来（一社）との連携

子どもの居場所事業 表現活動

(5) 住居提供と生活支援

鹿沼市府中町123-3 第二藤ハイツ

現在4室がCCV利用者（1室はCCVが賃貸契約）

(6) 成果と課題

- ・一度ネットワークが成立すると強固なかかわりができ、安定して人が育つ土壌ができていく。鹿沼の中に継続した支援が根つき、他地域に発信できている。
- ・こども若者の問題が深刻化、複雑化している。行政と連携を密にした地域の手によるトータルなサポート体制がさらに必要である。
- ・親支援のニーズがクローズアップされている。親の会の必要性が高まっている。

5 各種講演活動

(1) 発達障害者運転免許取得事業全国研修会

(2) 全指連発達障害者教習支援指導者研修会

(3) 鹿沼市学習支援研修会

(4) 栃木県人権擁護委員会研修会

(5) 中小企業家同友会障害者問題全国交流会

(6) 成果と課題

多様性を生かすかかわりは、地域の既存の人的物的資源とつなげることで、化学変化を起こし、活性化することが体験できた。

埋もれている人材、資源を活用して鹿沼市の魅力を再発見し、他地域に発信していきたい。